

(5) へき地医療・地域医療に関する卒前教育の経験別(単位：%)

a) 単純集計

《卒前教育の経験》	1. 総合診療指向	2. 総合診療に理解のある専門医	3. 将来の総合診療に含み	4. 総合診療の概念に賛同できない	5. 総合診療の概念が理解できない	6. その他	無回答 [数(%)]
あり(461名)	12.4	54.9	24.5	1.3	2.0	2.8	10(2.2)
なし(650名)	7.7	59.8	20.6	1.5	2.6	2.6	33(5.1)
わからない(117名)	7.7	54.7	26.5	3.4	4.3	1.7	2(1.7)
無回答(12名)	8.3	33.3	16.7	8.3	0.0	0.0	4(33.3)
全体(1240名)	9.4	57.3	22.6	1.7	2.5	2.6	49(4.0)

① 「総合診療指向のもの」(1) vs. 無回答を除いた全ての合計(2-6の合計)について2群で分析

《卒前教育の経験》	総合診療指向	それ以外
あり(451名)	57	394
なし(617名)	50	567

$\chi^2=5.943$
 (両側検定) $P=0.01744$ 有意水準5%で有意
 [Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

地域医療・へき地医療の卒前教育を受けた医師は、総合診療を指向する割合が有意に高かった。

② 「将来の総合診療に含み」(3) vs. 無回答を除いた全ての合計(1-2と4-6の合計)

《卒前教育の経験》	将来に含み	それ以外
あり(451名)	113	338
なし(617名)	134	483

$\chi^2=1.632$
 (両側検定) $P=0.21204$ 有意差なし
 [Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

b) 総合診療の概念に賛同するものと賛同理解できないものの割合(単位：%)

《卒前教育の経験》	1-3の合計		4と5の合計		6. その他	無回答 [数(%)]
	1. 総合診療指向	2. 総合診療に理解のある専門医	4. 賛同できない	5. 理解できない		
あり(461名)	91.8		3.3		2.8	10(2.2)
なし(650名)	88.2		4.2		2.6	33(5.1)
わからない(117名)	88.9		7.7		1.7	2(1.7)
無回答(38名)	58.3		8.3		0.0	4(33.3)
全体(1240名)	89.3		4.2		2.6	49(4.0)

③ 「賛同できる」(1-3) vs. 「賛同・理解できない」(4-5) その他・無回答を除く

《卒前教育の経験》	賛同できる	賛同・理解できない
あり(438名)	423	15
なし(600名)	573	27

$\chi^2=0.754$
 (両側検定) $P=0.42809$ 有意差なし
 [Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

(5') 交絡因子としてのE大学へき地医療・地域医療に関する卒前教育の経験別(単位: %)

a) 単純集計

《卒前教育》	《出身大学》	1. 総合診療指向	2. 総合診療に理解のある専門医	3. 将来の総合診療に含み	4. 総合診療の概念に賛同できない	5. 総合診療の概念が理解できない	6. その他	無回答
あり(461名)	E大学(99名)	19.2	41.4	29.3	0.0	2.0	6.1	2.0
	それ以外(349名)	10.0	59.0	23.8	1.7	1.4	2.0	2.0
	無回答(13名)	23.1	46.2	7.7	0.0	15.4	0.0	7.7
	合計(461名)	12.4	54.9	24.5	1.3	2.0	2.8	2.2
なし(650名)	E大学(5名)	20.0	60.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	それ以外(618名)	7.4	60.5	20.9	1.6	2.4	2.6	4.5
	無回答(27名)	11.1	44.4	14.8	0.0	7.4	3.7	18.5
	合計(650名)	7.7	59.8	20.6	1.5	2.6	2.6	5.1
わからない(117名)	E大学(2名)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	それ以外(107名)	7.5	55.1	27.1	3.7	3.7	0.9	1.9
	無回答(8名)	0.0	50.0	25.0	0.0	12.5	12.5	0.0
	合計(117名)	7.7	54.7	26.5	3.4	4.3	1.7	1.7
無回答(12名)	それ以外(7名)	0.0	57.1	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0
	無回答(5名)	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0
	合計(12名)	8.3	33.3	16.7	8.3	0.0	0.0	33.3
全体(1240名)		9.4	57.3	22.6	1.7	2.5	2.6	4.0

①「総合診療指向のもの」(1)vs. 無回答を除いた全ての合計(2-6の合計) E大学・それ以外に分類

E大学	総合診療指向	それ以外
卒前教育あり(97名)	19	78
卒前教育なし(5名)	1	4

$\chi^2=0.0005$

(両側検定) $P=1.00000$ 有意差なし

[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

E大学以外	総合診療指向	それ以外
卒前教育あり(342名)	35	307
卒前教育なし(590名)	46	544

$\chi^2=1.621$

(両側検定) $P=0.22776$ 有意差なし

[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

卒前教育あり・なしで分類

《卒前教育あり》	総合診療指向	それ以外
E大学(97名)	19	78
E大学以外(342名)	35	307

$\chi^2=6.129$

(両側検定) $P=0.01561$ 有意水準5%で有意

[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《卒前教育なし》	総合診療指向	それ以外
E大学(5名)	1	4
E大学以外(590名)	46	544

$\chi^2=1.015$

(両側検定) $P=0.33826$ 有意差なし

[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

大学別の分析で卒前教育の有無で有意差が消失し、教育ありの群でE大学とE大学以外の間に有意差あり。

②「将来の総合診療に含み」(3) vs. 無回答を除いた全ての合計(1-2 と 4-6 の合計) E大学・それ以外

E大学	将来に含み	それ以外
卒前教育あり(97名)	29	68
卒前教育なし(5名)	1	4

$\chi^2=0.224$
 (両側検定) $P=1.00000$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

E大学以外	将来に含み	それ以外
卒前教育あり(342名)	83	259
卒前教育なし(590名)	129	461

$\chi^2=0.712$
 (両側検定) $P=0.41794$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

卒前教育あり・なしで分類

《卒前教育あり》	将来に含み	それ以外
E大学(97名)	29	68
E大学以外(342名)	83	259

$\chi^2=1.260$
 (両側検定) $P=0.29133$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《卒前教育なし》	将来に含み	それ以外
E大学(5名)	1	4
E大学以外(590名)	129	461

$\chi^2=0.010$
 (両側検定) $P=1.00000$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

「将来に含み」については、卒前教育の有無、大学による違いは認められなかった。

b) 総合診療の概念に賛同するものと賛同理解できないものの割合 (単位: %)

《卒前教育》	《出身大学》	1-3の合計	4と5の合計	6. その他	無回答
		1. 総合診療指向 2. 総合診療に理解のある専門医 3. 将来の総合診療に含み	4. 賛同できない 5. 理解できない		
あり(461名)	E大学(99名)	89.9	2.0	6.1	2.0
	それ以外(349名)	92.8	3.2	2.0	2.0
	無回答(13名)	76.9	15.4	0.0	7.7
	合計(461名)	91.8	3.3	2.8	2.2
なし(650名)	E大学(5名)	100.0	0.0	0.0	0.0
	それ以外(618名)	88.8	4.0	2.6	4.5
	無回答(27名)	70.4	7.4	3.7	18.5
	合計(650名)	88.2	4.2	2.6	5.1
わからない(117名)	E大学(2名)	100.0	0.0	0.0	0.0
	それ以外(107名)	89.7	7.5	0.9	1.9
	無回答(8名)	75.0	12.5	12.5	0.0
	合計(117名)	88.9	7.7	1.7	1.7
無回答(38名)	それ以外(7名)	85.7	14.3	0.0	0.0
	無回答(5名)	20.0	0.0	0.0	80.0
	合計(12名)	58.3	8.3	0.0	33.3
全体(1240名)		89.3	4.2	2.6	4.0

③「賛同できる」(1-3) vs. 「賛同・理解できない」(4-5) その他・無回答を除く

E大学	賛同できる	賛同・理解できない
卒前教育あり(91名)	89	2
卒前教育なし(5名)	5	0

$$\chi^2=0.112$$

(両側検定) P = 1.00000 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2 表)]

E大学以外	賛同できる	賛同・理解できない
卒前教育あり(335名)	324	11
卒前教育なし(574名)	549	25

$$\chi^2=0.638$$

(両側検定) P = 0.48402 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2 表)]

卒前教育あり・なしで分類

《卒前教育あり》	賛同できる	賛同・理解できない
E大学(91名)	89	2
E大学以外(335名)	324	11

$$\chi^2=0.285$$

(両側検定) P = 0.74380 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2 表)]

《卒前教育なし》	賛同できる	賛同・理解できない
E大学(5名)	5	0
E大学以外(590名)	549	25

$$\chi^2=0.228$$

(両側検定) P = 1.00000 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2 表)]

賛同 vs. 「賛同・理解できない」については、卒前教育の有無、大学による違いは認められなかった。

(6)へき地勤務の経験別(単位：%)

a) 単純集計

《へき地勤務》	1. 総合診療指向	2. 総合診療に理解のある専門医	3. 将来の総合診療に含み	4. 総合診療の概念に賛同できない	5. 総合診療の概念が理解できない	6. その他	無回答 [数(%)]
経験あり(548名)	11.9	53.5	23.0	2.0	2.2	3.5	22(4.0)
経験なし(677名)	7.4	61.0	22.6	1.5	2.7	1.9	20(3.0)
無回答(15名)	13.3	26.7	6.7	0.0	6.7	0.0	7(46.7)
全体(1240名)	9.4	57.3	22.6	1.7	2.5	2.6	49(4.0)

①「総合診療指向のもの」(1) vs. 無回答を除いた全ての合計(2-6の合計)について2群で分析

《へき地勤務》	総合診療指向	それ以外
経験あり(548名)	65	461
経験なし(677名)	50	607

$$\chi^2=7.501$$

(両側検定) P = 0.00749 有意水準1%で有意

[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

へき地勤務の経験を持つ医師では、総合診療指向のものが有意に高かった。

②「将来の総合診療に含み」(3) vs. 無回答を除いた全ての合計(1-2と4-6の合計)

《へき地勤務》	将来に含み	それ以外
経験あり(548名)	126	400
経験なし(677名)	153	504

$$\chi^2=0.072$$

(両側検定) P = 0.83625 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

b) 総合診療の概念に賛同するものと賛同理解できないものの割合 (単位：%)

《へき地勤務》	1-3の合計	4と5の合計	6. その他	無回答 [数(%)]
	1. 総合診療指向 2. 総合診療に理解のある専門医 3. 将来の総合診療に含み	4. 賛同できない 5. 理解できない		
経験あり(548名)	88.3	4.2	3.5	22(4.0)
経験なし(677名)	91.0	4.1	1.9	20(3.0)
無回答(15名)	46.7	6.7	0.0	7(46.7)
全体(1240名)	89.3	4.2	2.6	49(4.0)

③「賛同できる」(1-3) vs. 「賛同・理解できない」(4-5) その他・無回答を除く

《へき地勤務》	賛同できる	賛同・理解できない
経験あり(507名)	484	23
経験なし(644名)	616	28

$$\chi^2=0.0238$$

(両側検定) P = 0.42809 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

(6') 交絡因子としてのE大学へき地勤務の経験別(単位: %)

a) 単純集計

《へき地勤務》	《出身大学》	1. 総合診療指向	2. 総合診療に理解のある専門医	3. 将来の総合診療に含み	4. 総合診療の概念に賛同できない	5. 総合診療の概念が理解できない	6. その他	無回答
あり(548名)	E大学(93名)	17.2	47.3	28.0	0.0	2.2	5.4	0.0
	それ以外(436名)	10.3	55.3	22.2	2.5	2.1	3.0	4.6
	無回答(19名)	21.1	42.1	15.8	0.0	5.3	5.3	10.5
	計(548名)	11.9	53.5	23.0	2.0	2.2	3.5	4.0
なし(677名)	E大学(11名)	36.4	9.1	36.4	0.0	0.0	9.1	9.1
	それ以外(638名)	6.7	62.5	22.7	1.6	2.2	1.7	2.5
	無回答(28名)	10.7	46.4	14.3	0.0	14.3	3.6	10.7
	計(677名)	7.4	61.0	22.6	1.5	2.7	1.9	3.0
無回答(15名)	E大学(2名)	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	それ以外(7名)	14.3	42.9	14.3	0.0	14.3	0.0	14.3
	無回答(6名)	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	83.3
	計(15名)	13.3	26.7	6.7	0.0	6.7	0.0	46.7
全体(1240名)		9.4	57.3	22.6	1.7	2.5	2.6	4.0

① 「総合診療指向のもの」(1) vs. 無回答を除いた全ての合計(2-6の合計) E大学・それ以外に分類

E大学	総合診療指向	それ以外
へき地勤務あり(93名)	16	77
へき地勤務なし(10名)	4	6

$$\chi^2=2.999$$

(両側検定) P = 0.09994 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

E大学以外	総合診療指向	それ以外
へき地勤務あり(416名)	45	371
へき地勤務なし(622名)	43	579

$$\chi^2=4.897$$

(両側検定) P = 0.03066 有意水準5%で有意

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

へき地勤務あり・なしで分類

《卒前教育あり》	総合診療指向	それ以外
E大学(93名)	16	77
E大学以外(416名)	45	371

$$\chi^2=2.940$$

(両側検定) P = 0.11015 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《卒前教育なし》	総合診療指向	それ以外
E大学(10名)	4	6
E大学以外(622名)	43	579

$$\chi^2=15.65$$

(両側検定) P = 0.00406 有意水準1%で有意

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

E大学の中ではへき地勤務の有無で差がなかったが、E大学以外ではへき地勤務経験を持つ医師の方が総合診療を指向する医師の割合が高かった。

へき地勤務経験ありの群でE大学とE大学以外の間に有意差は認められなかったが、経験なしの群では、E大学のほうが有意に総合診療を指向する医師の割合が高かった。

②「将来の総合診療に含み」(3) vs. 無回答を除いた全ての合計(1-2と4-6の合計) E大学・それ以外

E大学	将来に含み	それ以外
へき地勤務あり(93名)	26	67
へき地勤務なし(10名)	4	6

$\chi^2=0.634$
 (両側検定) $P=0.47173$ 有意差なし
 [Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

E大学以外	将来に含み	それ以外
へき地勤務あり(416名)	97	319
へき地勤務なし(622名)	145	477

$\chi^2=0.0000041$
 (両側検定) $P=1.00000$ 有意差なし
 [Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

へき地勤務あり・なしで分類

《へき地勤務あり》	将来に含み	それ以外
E大学(93名)	29	68
E大学以外(416名)	83	259

$\chi^2=0.893$
 (両側検定) $P=0.35024$ 有意差なし
 [Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《へき地勤務なし》	将来に含み	それ以外
E大学(5名)	1	4
E大学以外(590名)	129	461

$\chi^2=1.521$
 (両側検定) $P=0.25679$ 有意差なし
 [Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

「将来に含み」については、へき地勤務の有無、大学による違いは認められなかった。

b) 総合診療の概念に賛同するものと賛同理解できないものの割合 (単位: %)

《へき地勤務》	《出身大学》	1-3の合計	4と5の合計	6. その他	無回答
		1. 総合診療指向 2. 総合診療に理解のある専門医 3. 将来の総合診療に含み	4. 賛同できない 5. 理解できない		
経験あり(548名)	E大学(93名)	92.5	2.2	5.4	0.0
	それ以外(436名)	87.8	4.6	3.0	4.6
	無回答(19名)	78.9	5.3	5.3	10.5
	計(548名)	88.3	4.2	3.5	4.0
経験なし(677名)	E大学(11名)	81.8	0.0	9.1	9.1
	それ以外(638名)	92.0	3.8	1.7	2.5
	無回答(28名)	71.4	14.3	3.6	10.7
	計(677名)	91.0	4.1	1.9	3.0
無回答(15名)	E大学(2名)	50.0	0.0	0.0	50.0
	それ以外(7名)	71.4	14.3	0.0	14.3
	無回答(6名)	16.7	0.0	0.0	83.3
	計(15名)	46.7	6.7	0.0	46.7
全体(1240名)		89.3	4.2	2.6	4.0

③「賛同できる」(1-3) vs. 「賛同・理解できない」(4-5) その他・無回答を除く E大学・それ以外

E大学	賛同できる	賛同・理解できない
へき地勤務あり(88名)	86	2
へき地勤務なし(9名)	9	0

$$\chi^2=0.209$$

(両側検定) P = 1.00000 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2 表)]

E大学以外	賛同できる	賛同・理解できない
へき地勤務あり(403名)	383	20
へき地勤務なし(611名)	587	24

$$\chi^2=0.626$$

(両側検定) P = 0.43505 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2 表)]

へき地勤務あり・なしで分類

《へき地勤務あり》	賛同できる	賛同・理解できない
E大学(88名)	86	2
E大学以外(403名)	383	20

$$\chi^2=1.221$$

(両側検定) P = 0.39584 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2 表)]

《へき地勤務なし》	賛同できる	賛同・理解できない
E大学(5名)	1	4
E大学以外(590名)	129	461

$$\chi^2=0.368$$

(両側検定) P = 1.00000 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2 表)]

賛同 vs. 賛同・理解できないについては、へき地勤務の有無、大学による違いは認められなかった。

(7) 出身大学別(単位：%)

a) 単純集計

《出身大学》	1. 総合診療指向	2. 総合診療に理解のある専門医	3. 将来の総合診療に含み	4. 総合診療の概念に賛同できない	5. 総合診療の概念が理解できない	6. その他	無回答 [数(%)]
A大学(207名)	3.4	58.9	20.3	5.3	3.9	2.9	11(5.3)
B´大学(70名)	8.6	61.4	18.6	2.9	1.4	1.4	4(5.7)
C´大学(98名)	8.2	65.3	15.3	1.0	3.1	4.1	3(3.1)
D大学(178名)	9.0	59.0	23.6	1.1	1.7	1.7	7(3.9)
E大学(106名)	19.8	42.5	28.3	0.0	1.9	5.7	2(1.9)
その他(528名)	9.8	58.5	24.8	0.9	1.7	1.9	12(2.3)
無回答(53名)	13.2	41.5	13.2	0.0	9.4	3.8	10(18.9)
全体(1240名)	9.4	57.3	22.6	1.7	2.5	2.6	49(4.0)

注) B´大学およびC´大学はそれぞれB臨床研修病院とC臨床研修病院の地元にある大学

①「総合診療指向のもの」(1) vs. 無回答を除いた全ての合計(2-6の合計)について各出身大学で分析

《出身大学》	総合診療指向	それ以外
A大学(196名)	7	189
B´大学(66名)	6	60

$\chi^2=3.189$
(両側検定) $P=0.09823$ 有意差なし
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《出身大学》	総合診療指向	それ以外
A大学(196名)	7	189
C´大学(95名)	8	87

$\chi^2=3.078$
(両側検定) $P=0.09326$ 有意差なし
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《出身大学》	総合診療指向	それ以外
A大学(196名)	7	189
D大学(171名)	16	155

$\chi^2=5.203$
(両側検定) $P=0.02971$ 有意水準5%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《出身大学》	総合診療指向	それ以外
A大学(196名)	7	189
E大学(104名)	21	83

$\chi^2=22.18$
(両側検定) $P=0.00001$ 有意水準1%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《出身大学》	総合診療指向	それ以外
A大学(196名)	7	189
その他(516名)	52	464

$\chi^2=7.911$
(両側検定) $P=0.00558$ 有意水準1%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《出身大学》	総合診療指向	それ以外
B´大学(66名)	6	60
C´大学(95名)	8	87

$\chi^2=0.022$
(両側検定) $P=1.00000$ 有意差なし
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《出身大学》	総合診療指向	それ以外
B´大学(66名)	6	60
D大学(171名)	16	155

$\chi^2=0.003$
(両側検定) $P=1.00000$ 有意差なし
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《出身大学》	総合診療指向	それ以外
B´大学(66名)	6	60
E大学(104名)	21	83

$\chi^2=3.725$

(両側検定) P = 0.08345 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2 表)]

《出身大学》	総合診療指向	それ以外
B´大学(66名)	6	60
その他(516名)	52	464

$\chi^2=0.063$

(両側検定) P = 0.83486 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2 表)]

《出身大学》	総合診療指向	それ以外
C´大学(95名)	8	87
D大学(171名)	16	155

$\chi^2=0.065$

(両側検定) P = 0.82861 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2 表)]

《出身大学》	総合診療指向	それ以外
C´大学(95名)	8	87
E大学(104名)	21	83

$\chi^2=5.526$

(両側検定) P = 0.02593 有意水準5%で有意

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2 表)]

《出身大学》	総合診療指向	それ以外
C´大学(95名)	8	87
その他(516名)	52	464

$\chi^2=0.249$

(両側検定) P = 0.71066 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2 表)]

《出身大学》	総合診療指向	それ以外
D大学(171名)	16	155
E大学(104名)	21	83

$\chi^2=6.520$

(両側検定) P = 0.01180 有意水準5%で有意

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2 表)]

《出身大学》	総合診療指向	それ以外
D大学(171名)	16	155
その他(516名)	52	464

$\chi^2=0.075$

(両側検定) P = 1.00000 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2 表)]

《出身大学》	総合診療指向	それ以外
E大学(104名)	21	83
その他(516名)	52	464

$\chi^2=8.525$

(両側検定) P = 0.00503 有意水準1%で有意

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2 表)]

E大学は、A大学、C´大学、D大学、その他との間で有意に「総合診療指向のもの」が多かった。

A大学は、D大学、E大学、その他とくらべて有意に「総合診療指向のもの」が少なかった。

②「将来の総合診療に含み」(3) vs. 無回答を除いた全ての合計(1-2と4-6の合計)

《出身大学》	将来に含み	それ以外
A大学(196名)	42	154
B'大学(66名)	13	53

$\chi^2=0.089$
 (両側検定) $P = 0.86206$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	将来に含み	それ以外
A大学(196名)	42	154
C'大学(95名)	15	80

$\chi^2=1.292$
 (両側検定) $P = 0.27486$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	将来に含み	それ以外
A大学(196名)	42	154
D大学(171名)	42	129

$\chi^2=0.507$
 (両側検定) $P = 0.50783$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	将来に含み	それ以外
A大学(196名)	42	154
E大学(104名)	30	74

$\chi^2=2.050$
 (両側検定) $P = 0.15823$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	将来に含み	それ以外
A大学(196名)	42	154
その他(516名)	131	385

$\chi^2=1.210$
 (両側検定) $P = 0.28365$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	将来に含み	それ以外
B'大学(66名)	13	53
C'大学(95名)	15	80

$\chi^2=0.022$
 (両側検定) $P = 0.53308$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	将来に含み	それ以外
B'大学(66名)	13	53
D大学(171名)	42	129

$\chi^2=0.632$
 (両側検定) $P = 0.49449$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	将来に含み	それ以外
B'大学(66名)	13	53
E大学(104名)	30	74

$\chi^2=1.789$
 (両側検定) $P = 0.20801$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	将来に含み	それ以外
B'大学(66名)	13	53
その他(516名)	131	385

$\chi^2=1.018$
 (両側検定) $P = 0.36507$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	将来に含み	それ以外
C'大学(95名)	15	80
D大学(171名)	42	129

$\chi^2=2.791$
 (両側検定) $P = 0.11874$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	将来に含み	それ以外
C'大学(95名)	15	80
E大学(104名)	30	74

$\chi^2=4.837$
 (両側検定) $P = 0.4106$ 有意水準5%で有意
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	将来に含み	それ以外
C´大学(95名)	15	80
その他(516名)	131	385

$\chi^2=4.064$

(両側検定) P = 0.4924 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《出身大学》	将来に含み	それ以外
D大学(171名)	42	129
E大学(104名)	30	74

$\chi^2=0.614$

(両側検定) P = 0.48017 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《出身大学》	将来に含み	それ以外
D大学(171名)	42	129
その他(516名)	131	385

$\chi^2=0.465$

(両側検定) P = 0.83998 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《出身大学》	将来に含み	それ以外
E大学(104名)	30	74
その他(516名)	131	385

$\chi^2=0.539$

(両側検定) P = 0.54015 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

E大学は、C´大学とくらべて有意に「将来の総合診療に含み」が多かった。

b) 総合診療の概念に賛同するものと賛同理解できないものの割合 (単位: %)

《出身大学》	1-3の合計	4と5の合計	6. その他	無回答 [数(%)]
	1. 総合診療指向 2. 総合診療に理解のある専門医 3. 将来の総合診療に含み	4. 賛同できない 5. 理解できない		
A大学(207名)	82.6	9.2	2.9	11(5.3)
B´大学(70名)	88.6	4.3	1.4	4(5.7)
C´大学(98名)	88.8	4.1	4.1	3(3.1)
D大学(178名)	91.6	2.8	1.7	7(3.9)
E大学(106名)	90.6	1.9	5.7	2(1.9)
その他(528名)	93.2	2.7	1.9	12(2.3)
無回答(53名)	67.9	9.4	3.8	10(18.9)
全体(1240名)	89.3	4.2	2.6	49(4.0)

注) B´大学およびC´大学はそれぞれB臨床研修病院とC臨床研修病院の地元にある大学

③「賛同できる」(1-3) vs. 「賛同・理解できない」(4-5) その他・無回答を除く

《出身大学》	賛同できる	賛同・理解できない
A大学(190名)	171	19
B´大学(65名)	62	3

$\chi^2=1.781$
(両側検定) $P=0.21206$ 有意差なし
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《出身大学》	賛同できる	賛同・理解できない
A大学(190名)	171	19
C´大学(91名)	87	4

$\chi^2=2.572$
(両側検定) $P=0.16137$ 有意差なし
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《出身大学》	賛同できる	賛同・理解できない
A大学(190名)	171	19
D大学(168名)	163	5

$\chi^2=7.033$
(両側検定) $P=0.00999$ 有意水準1%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《出身大学》	賛同できる	賛同・理解できない
A大学(190名)	171	19
E大学(104名)	96	2

$\chi^2=6.059$
(両側検定) $P=0.01513$ 有意水準5%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《出身大学》	賛同できる	賛同・理解できない
A大学(190名)	171	19
その他(516名)	492	14

$\chi^2=16.00$
(両側検定) $P=0.00017$ 有意水準1%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《出身大学》	賛同できる	賛同・理解できない
B´大学(65名)	62	3
C´大学(91名)	87	4

$\chi^2=0.004$
(両側検定) $P=1.00000$ 有意差なし
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《出身大学》	賛同できる	賛同・理解できない
B´大学(65名)	62	3
D大学(168名)	163	5

$\chi^2=0.380$
(両側検定) $P=0.68896$ 有意差なし
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《出身大学》	賛同できる	賛同・理解できない
B´大学(65名)	62	3
E大学(98名)	96	2

$\chi^2=0.871$
 (両側検定) $P = 0.38848$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	賛同できる	賛同・理解できない
B´大学(65名)	62	3
その他(506名)	492	14

$\chi^2=0.681$
 (両側検定) $P = 0.42778$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	賛同できる	賛同・理解できない
C´大学(91名)	87	4
D大学(168名)	163	5

$\chi^2=0.355$
 (両側検定) $P = 0.72398$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	賛同できる	賛同・理解できない
C´大学(91名)	87	4
E大学(98名)	96	2

$\chi^2=0.851$
 (両側検定) $P = 0.43060$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	賛同できる	賛同・理解できない
C´大学(91名)	87	4
その他(506名)	492	14

$\chi^2=0.700$
 (両側検定) $P = 0.50004$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	賛同できる	賛同・理解できない
D大学(168名)	163	5
E大学(98名)	96	2

$\chi^2=0.211$
 (両側検定) $P = 0.71793$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	賛同できる	賛同・理解できない
D大学(168名)	163	5
その他(506名)	492	14

$\chi^2=0.020$
 (両側検定) $P = 1.00000$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《出身大学》	賛同できる	賛同・理解できない
E大学(198名)	96	2
その他(506名)	492	14

$\chi^2=0.168$
 (両側検定) $P = 0.75714$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

A大学は、E大学、その他にくらべて、賛同・理解できないとの回答が有意に多かった。

(8) 初期臨床研修の方式別(単位：%)

a) 単純集計

《研修方式》	1. 総合診療指向	2. 総合診療に理解のある専門医	3. 将来の総合診療に含み	4. 総合診療の概念に賛同できない	5. 総合診療の概念が理解できない	6. その他	無回答
総合診療(478名)	14.4	51.7	26.4	0.6	2.1	2.9	1.9
内科ストレート(156名)	10.3	55.8	26.9	1.9	3.2	1.3	0.6
外科ストレート(110名)	2.7	64.5	22.7	1.8	1.8	3.6	2.7
他科ストレート(224名)	5.8	70.1	17.0	3.1	1.8	1.3	0.9
その他(84名)	4.8	60.7	15.5	2.4	2.4	9.5	4.8
受けていない(143名)	7.0	54.5	21.7	2.8	4.9	0.7	8.4
無回答(45名)	4.4	42.2	11.1	0.0	2.2	0.0	40.0
全体(1240名)	9.4	57.3	22.6	1.7	2.5	2.6	4.0

①「総合診療指向のもの」(1)vs. 無回答を除いた全ての合計(2-6の合計)について各方式間で分析

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
総合診療(469名)	69	400
内科ストレート(155名)	16	139

$\chi^2=1.907$
(両側検定) $P=0.17942$ 有意差なし
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
総合診療(469名)	69	400
外科ストレート(107名)	3	104

$\chi^2=11.30$
(両側検定) $P=0.00113$ 有意水準1%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
総合診療(469名)	69	400
他科ストレート(222名)	13	209

$\chi^2=11.30$
(両側検定) $P=0.00096$ 有意水準1%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
総合診療(469名)	69	400
全ストレート(484名)	32	452

$\chi^2=16.50$
(両側検定) $P=0.00005$ 有意水準1%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
総合診療(469名)	69	400
その他(80名)	4	76

$\chi^2=5.591$
(両側検定) $P=0.01918$ 有意水準5%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
総合診療(469名)	69	400
受けていない(131名)	10	121

$\chi^2=4.488$
(両側検定) $P=0.03990$ 有意水準5%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
内科ストレート(155名)	16	139
外科ストレート(107名)	3	104

$\chi^2=5.321$
(両側検定) $P=0.02735$ 有意水準5%で有意
[Fisherの直接確率計算法(2×2表)]

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
内科ストレート(155名)	16	139
他科ストレート(222名)	13	209

$\chi^2=2.564$
(両側検定) $P=0.11940$ 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
内科ストレート(155名)	16	139
その他(80名)	4	76

$\chi^2=1.920$
(両側検定) $P=0.21967$ 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
内科ストレート(155名)	16	139
受けていない(131名)	10	121

$\chi^2=0.621$
(両側検定) $P=0.53697$ 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
外科ストレート(107名)	3	104
他科ストレート(222名)	13	209

$\chi^2=1.454$
(両側検定) $P=0.28343$ 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
外科ストレート(107名)	3	104
その他(80名)	4	76

$\chi^2=0.613$
(両側検定) $P=0.46339$ 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
外科ストレート(107名)	3	104
受けていない(131名)	10	121

$\chi^2=2.661$
(両側検定) $P=0.15125$ 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
他科ストレート(222名)	13	209
その他(80名)	4	76

$\chi^2=0.081$
(両側検定) $P=0.79317$ 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
他科ストレート(222名)	13	209
受けていない(131名)	10	121

$\chi^2=0.427$
(両側検定) $P=0.65611$ 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	総合診療指向	それ以外
その他(80名)	4	76
受けていない(131名)	10	121

$\chi^2=0.556$
(両側検定) $P=0.57483$ 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

総合診療方式と外科系ストレート、他科ストレート、全てのストレート、その他、研修を受けていないの間、内科系ストレートと外科系ストレートの間で有意な差があり、総合診療方式と内科系ストレートで研修した医師において、総合診療を指向する割合が有意に高かった。

②「将来の総合診療に含み」(3) vs. 無回答を除いた全ての合計(1-2と4-6の合計)

《研修方式》	将来に含み	それ以外
総合診療(469名)	126	343
内科ストレート(155名)	42	113

$\chi^2=0.003$
 (両側検定) $P=1.0000$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	将来に含み	それ以外
総合診療(469名)	126	343
外科ストレート(107名)	25	82

$\chi^2=0.552$
 (両側検定) $P=0.46916$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	将来に含み	それ以外
総合診療(469名)	126	343
他科ストレート(222名)	38	184

$\chi^2=7.910$
 (両側検定) $P=0.00539$ 有意水準1%で有意
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	将来に含み	それ以外
総合診療(469名)	126	343
全ストレート(484名)	105	379

$\chi^2=3.468$
 (両側検定) $P=0.06958$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	将来に含み	それ以外
総合診療(469名)	126	343
その他(80名)	13	67

$\chi^2=4.073$
 (両側検定) $P=0.05092$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	将来に含み	それ以外
総合診療(469名)	126	343
受けていない(131名)	31	100

$\chi^2=0.543$
 (両側検定) $P=0.50122$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	将来に含み	それ以外
内科ストレート(155名)	42	113
外科ストレート(107名)	25	82

$\chi^2=0.463$
 (両側検定) $P=0.56518$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	将来に含み	それ以外
内科ストレート(155名)	42	113
他科ストレート(222名)	38	184

$\chi^2=5.438$
 (両側検定) $P=0.02162$ 有意水準5%で有意
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	将来に含み	それ以外
内科ストレート(155名)	42	113
その他(80名)	13	67

$\chi^2=3.463$
 (両側検定) $P=0.07407$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	将来に含み	それ以外
内科ストレート(155名)	42	113
受けていない(131名)	31	100

$\chi^2=0.440$
 (両側検定) $P=0.58643$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	将来に含み	それ以外
外科ストレート(107名)	3	104
他科ストレート(222名)	13	209

$\chi^2=1.820$
 (両側検定) $P=0.18163$ 有意差なし
 [Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	将来に含み	それ以外
外科ストレート(107名)	25	82
その他(80名)	13	67

$\chi^2=1.431$
(両側検定) $P=0.27266$ 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	将来に含み	それ以外
外科ストレート(107名)	25	82
受けていない(131名)	31	100

$\chi^2=0.003$
(両側検定) $P=1.0000$ 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	将来に含み	それ以外
他科ストレート(222名)	38	184
その他(80名)	13	67

$\chi^2=0.031$
(両側検定) $P=0.86526$ 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	将来に含み	それ以外
他科ストレート(224名)	38	184
受けていない(131名)	31	100

$\chi^2=2.246$
(両側検定) $P=0.16448$ 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	将来に含み	それ以外
その他(80名)	13	67
受けていない(131名)	31	100

$\chi^2=1.654$
(両側検定) $P=0.22468$ 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

「将来、総合診療を行っても良い」との回答については、総合診療方式と他科ストレートの間にのみ有意な差が認められ、総合診療方式で研修をしたものが多く回答していた。

b) 総合診療の概念に賛同するものと賛同理解できないものの割合 (単位: %)

《出身大学》	1-3の合計			4と5の合計		6. その他	無回答 [数(%)]
	1. 総合診療指向	2. 総合診療に理解のある専門医	3. 将来の総合診療に含み	4. 賛同できない	5. 理解できない		
総合診療(478名)			92.5	2.7		2.9	9(1.9)
内科ストレート(156名)			92.9	5.1		1.3	1(0.6)
外科ストレート(110名)			90.0	3.6		3.6	3(2.7)
他科ストレート(224名)			92.9	4.9		1.3	2(0.9)
その他(84名)			81.0	4.8		9.5	4(4.8)
受けていない(143名)			83.2	7.7		0.7	12(8.4)
無回答(45名)			57.8	2.2		0.0	18(40.0)
全体(1240名)			89.3	4.2		2.6	49(4.0)

③ 「賛同できる」(1-3) vs. 「賛同・理解できない」(4-5) その他・無回答を除く

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
総合診療(455名)	442	13
内科ストレート(153名)	145	8

$\chi^2=1.931$
(両側検定) $P=0.19868$ 有意差なし
[Fisher の直接確率計算法 (2×2表)]

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
総合診療(455名)	442	13
外科ストレート(103名)	99	4

$\chi^2=0.300$

(両側検定) P = 0.7501 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
総合診療(455名)	442	13
他科ストレート(219名)	208	11

$\chi^2=2.019$

(両側検定) P = 0.18321 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
総合診療(455名)	442	13
全ストレート(475名)	452	23

$\chi^2=2.461$

(両側検定) P = 0.12822 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
総合診療(455名)	442	13
その他(72名)	68	4

$\chi^2=1.450$

(両側検定) P = 0.27033 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
総合診療(469名)	442	13
受けていない(130名)	119	11

$\chi^2=8.072$

(両側検定) P = 0.00753 有意水準1%で有意

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
内科ストレート(153名)	145	8
外科ストレート(103名)	99	4

$\chi^2=0.249$

(両側検定) P = 0.76704 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
内科ストレート(153名)	145	8
他科ストレート(219名)	208	11

$\chi^2=0.008$

(両側検定) P = 1.0000 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
内科ストレート(153名)	145	8
その他(72名)	68	4

$\chi^2=0.010$

(両側検定) P = 1.00000 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
内科ストレート(153名)	145	8
受けていない(130名)	119	11

$\chi^2=1.173$

(両側検定) P = 0.34294 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
外科ストレート(103名)	99	4
他科ストレート(219名)	208	11

$\chi^2=0.205$

(両側検定) P = 0.78183 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
外科ストレート(103名)	99	4
その他(72名)	68	4

$\chi^2=0.272$

(両側検定) P = 0.71851 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
外科ストレート(103名)	99	4
受けていない(130名)	119	11

$\chi^2=2.000$

(両側検定) P = 0.18700 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
他科ストレート(219名)	208	11
その他(72名)	68	4

$\chi^2=0.031$

(両側検定) P = 1.0000 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
他科ストレート(219名)	208	11
受けていない(130名)	119	11

$\chi^2=1.633$

(両側検定) P = 0.25466 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

《研修方式》	賛同できる	賛同・理解できない
その他(72名)	68	4
受けていない(130名)	119	11

$\chi^2=0.569$

(両側検定) P = 0.58031 有意差なし

[Fisher の直接確率計算法 (2 × 2表)]

賛同できる vs. 賛同・理解できないについては、総合診療方式と研修を受けていないの間でのみ、有意差が認められた。